

ヘルメットはかぶり間違いではありません。
あご紐をとめていないのは倒れたときに脱げてしまいます!!
逆さにかぶるのはあご紐をしめていないより悪いです!!

まっすぐ深くかぶり、あご紐をしっかり
と締めなければ、いざという
時にヘルメットの機能が効かない
のです。



日本製のヘルメットは、中
に発泡スチロールのクッション
も入っているんですね。



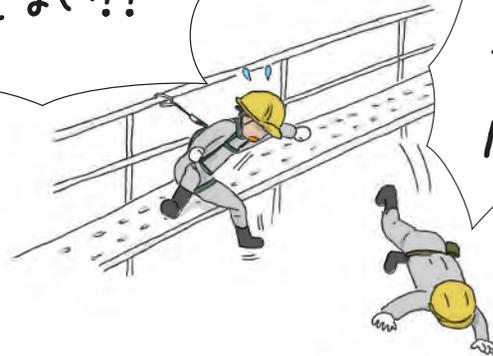
日本では、ヘルメットの素材の強度やつくりについて厚生労働省が基準を作成しており、認定されたヘルメットの使用が勧められています。また、ヘルメットはプラスチックの劣化があるので、使用期限が決まっています。未使用品でも数年で使用不可になります。



さらに、
高所作業をするときは、
安全帯の使用も絶対
欠かせません。



危ない!!



でも、うっかりバランスを崩したときは、
命に関わりますよ。

作業しにくそうですね...

作業しやすさより命の方が大事ですね...





作業前の朝礼



© 近畿中国森林管理局 奈良森林管理事務所

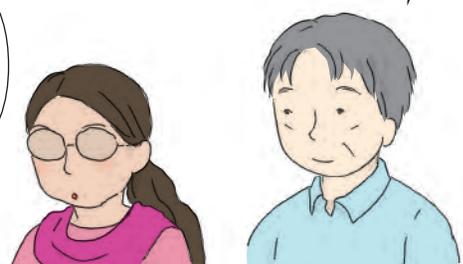
人の注意不足による事故の発生を減らすのは大変です。日本では施工業者は安全管理責任者を決め、その人を中心にして、毎日作業前に朝礼を行ったり、作業を行う人たちが遭遇したりリスクを他の人と共有したりします。

適度な休憩



© 近畿中国森林管理局 奈良森林管理事務所

工事が安全に進むためには、こういうことも必要なんですわね。



掲示板の設置



© 北浦真吾, TCP





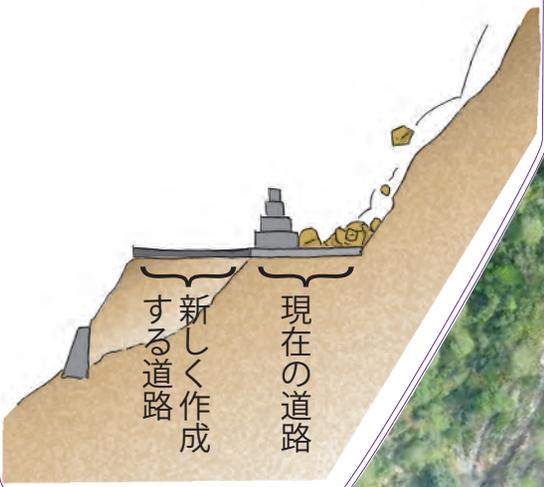


そうですね。設計者はこのことを踏まえて、設計書を作成する時に実施計画というものも作ります。プロジェクトのモデルサイトのものを見てもらえると分かりやすいと思います。

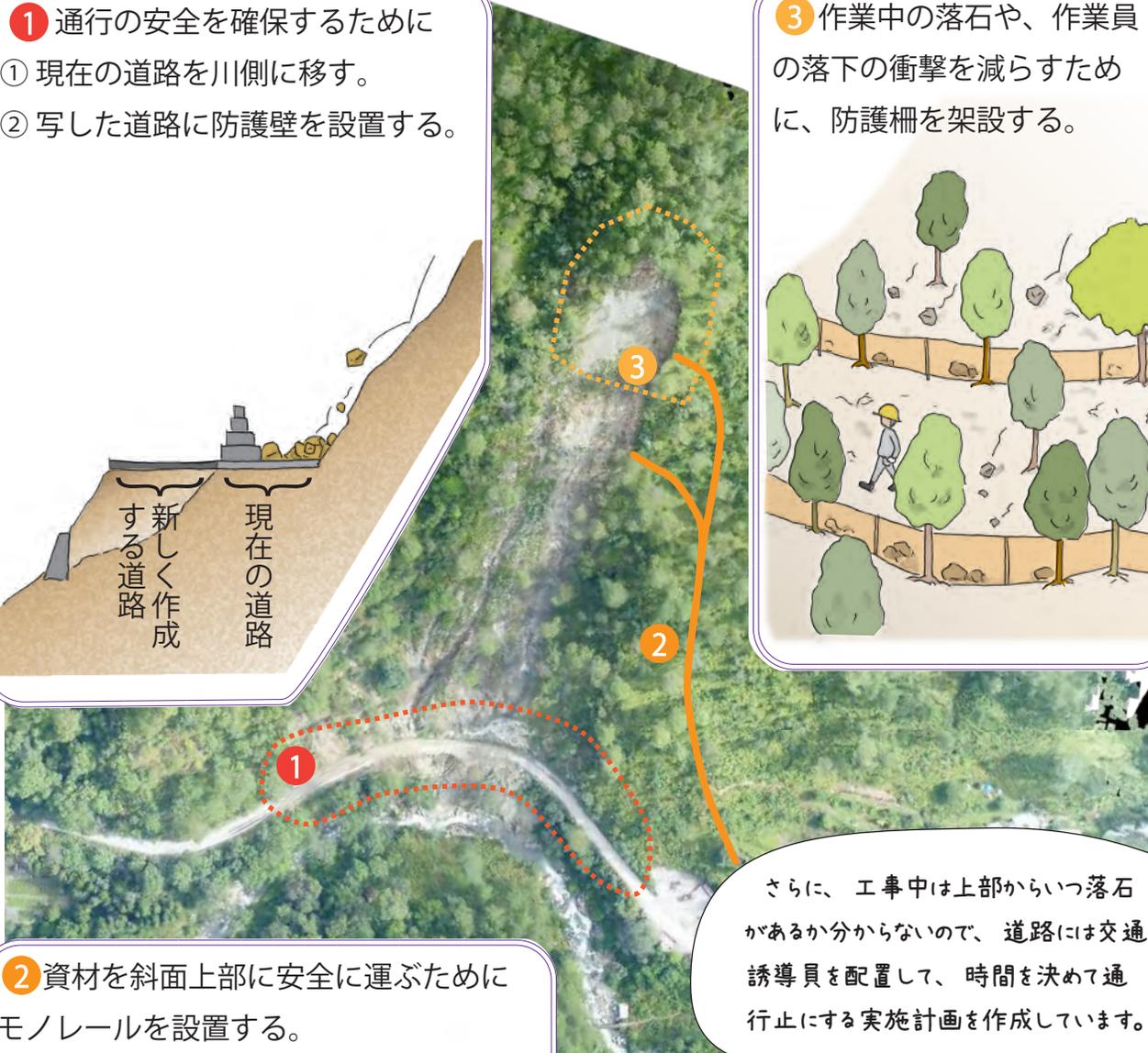
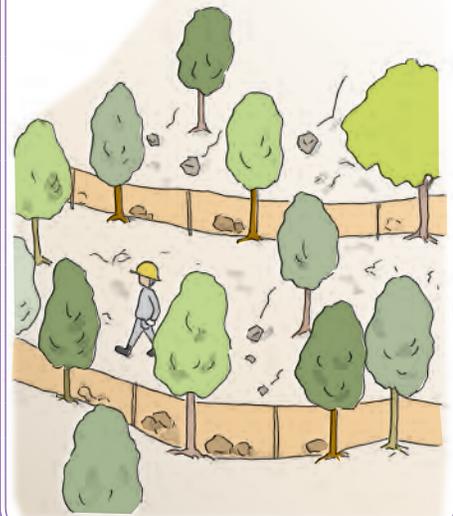
上斜面が崩れやすい急斜面になっているサイトですね。



- 1** 通行の安全を確保するために
- ① 現在の道路を川側に移す。
 - ② 写した道路に防護壁を設置する。



- 3** 作業中の落石や、作業員の落下の衝撃を減らすために、防護柵を架設する。



- 2** 資材を斜面上部に安全に運ぶためにモノレールを設置する。



写真提供
© 近畿中国森林管理局
奈良森林管理事務所

さらに、工事中は上部からいつ落石があるか分からないので、道路には交通誘導員を配置して、時間を決めて通行止にする実施計画を作成しています。



そこまでするんですか？







ハインリッヒの法則

1つの重大事故の背景には29の軽微な事故があり、さらにその背景には300のヒヤリハット（「ヒヤリ」や「ハッ」とする些細な出来事）が存在するという法則です。

ハインリッヒの法則は、アメリカの損害保険会社に勤めていたハーバード・ウィリアム・ハインリッヒが5000件以上の事故事例をもとに導き出し、1928年に発表した統計的な経験則です。全ての重大事故に当てはまる法則ではありませんが、些細な出来事、軽微な事故が頻発する現場では、重大な事故が起こる要因が多く潜んでいるとも言え、日頃からの注意が重大事故の発生を抑えるカギとなるのです。

